

2019年5月23日 標準委員会遮蔽分科会および第25回材料標準作業会 出張報告

期 間：2019年5月23日 ～

出張先：ATOX田町本社9階大会議室

出張先・面接者

【敬称略・順不同】(中電)島本、(竹中工務店)前中、鈴木、(ATOX)坂本(分科会主査)、河野(CTC)石川、(日立GE)月山、(安藤ハザマ)奥野(分科会・作業会幹事)、(フジタ)木村(作業会主査)、(富士電機)中野、(海技研)大西(平尾代理)、(東芝)松山、(CTC)天野、(大成建設)谷口、(エネ総研)田中、(原安技セ)吉田、(MHI)尾方、(MHI NS)中田(作業会副主査)



【出席者名簿】放射線遮蔽分科会・遮蔽材料標準作業会合同会合R元年5月23日.pdf

報告要旨、対策・処置等

原子力学会標準「遮蔽材料標準」の第25回作業会を開催した。今回は、建築学会側の検討が終了し、その説明もあることと、1年半前に発生した建築学会側委員から木村主査への作業会検討推進への見解表明とその対応についての説明、今後の標準作成にかかる木村主査宣言がある為、分科会と合同開催とした。(分科会委員と作業会委員は、多くが重複しているため、合同開催可能となった。)

以下に、会議要旨と、特記事項を示す。

1. 第27回分科会議事録確認(資料①):特記事項なし。
2. 倫理教育(資料②):分科会主査から概要紹介あり。各自自習すること。
3. 建築学会所属委員のコンクリート遮蔽標準策定に対する提案と回答
木村主査から、建築学会所属委員からの見解と対応回答を説明あり。

しかしながら、木村主査の標準作業会推進に対する建築学会所属委員からの成文化した指摘とその対応については全く触れていなかったため、本件に関わらなかった委員への、現在の建築学会側のみで検討が進んでいる状況説明を下名から実施。すなわち、「もめごと」と委員の一部が退会した事態のニュアンスと、それを背景とした、建築学会側単独で1年間検討した頂いた背景を説明。

4. 建築学会側の組成検討成果説明(非公開内容含むため、スライド説明のみ。)

コンクリート内の骨材を酸化物として整理し、骨材種類に関係なく標準組成を決定できるよう、SiとCaで置き換えた組成を提案。また、竹中工務店鈴木氏(作業会常時参加者)にて、作業会感度解析Gr各委員のサポートを得て実施した、235U線源に対するANISNケーススタディを紹介。

感度解析Grからの見解を、下記の通り下名から説明。(主に日立月山委員、大成谷口委員と下名で相談。)

- ・「骨材種類に関係ない標準組成」の検討方針は賛同するが、2mでの減衰率が、ANL-5800に比べ桁大きいので、FeやCをある程度含めて、保守性を下げる必要あり。
- ・建築学会側の検討結果を参照し、振れ幅を考慮してFeやCを混入したケーススタディを、感度解析Grで実施し、材料策定Grで検討する。
- ・その際は、材料作成Grとして建築学会側の委員にも検討いただく。
- ・感度解析Grの検討は、9月末を目標ゴールとする。
- ・下名でケーススタディ計画策定、感度解析Gr会合で協議する。

5. 今後の標準作成方針

- ・2020年3月までに原子力学会誌への論文投稿、次回ICRSとSATIF発表、前回のICRSとSATIFのProceedingを、標準のバックアップ論文とする。
- ・2019年秋の学会には、材料組成検討(前中委員?)と、遮蔽設計組成の調査(谷口委員)を発表することで計画する。

6. 第2回遮蔽設計法WS

坂本分科会主査から、8/19終日を予定するとのアナウンスあり。

7. 廃止措置・解体廃棄物放射化検討

田中委員から、福井大柳原先生とその学生の研究題材として、放射化検討を依頼し、その中で遮蔽設計法の指導を行い、材料標準の次の材料作成(学生研究による無料実施)と学生教育を行うコラボを相談中であり、協力依頼があった。

【配布資料】

- ① 第27回 放射線遮蔽分科会(R2SC)議事録(案)
- ② SG-108 倫理教育実施ガイドライン
- ③ 建築学会 所属委員のコンクリート遮蔽標準策定に対する提案
- ④ 建築学会所属委員のコンクリート遮蔽標準策定に対する提案に対する回答
- ⑤ 「放射線遮蔽設計に用いる材料組成」の制定について

以上